

## 平成 19 年（2007 年）のアトサヌプリの火山活動

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## ○ 2007 年の活動概況

## ・火口や噴気の状況（図 1～6）

7 月 13 日、8 月 29 日、11 月 6 日に現地調査を実施しました。また 3 月 1 日、7 月 3 日、8 月 20 日には北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。アトサヌプリ溶岩ドームでは噴気活動が続いており、点在する複数の噴気孔から白色の噴気が 10m 程度上っていました。それぞれの噴気温度は 100～120℃（直接測定）で、これまでと比較して変化はありませんでした。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測でも、特段の変化は認められませんでした。

なお、熊落し火口を含む溶岩ドーム山頂部では噴気は認められませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

## ・地震活動（図 7）

2007 年 7 月 13 日～2007 年 11 月 7 日にかけて 3 地点（図 3 中の +）に地震計を設置しましたが、この期間に発生した火山性地震の発生回数は 13 回で、地震活動は低調に推移しました。

## ○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注) 平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。アトサヌプリでは、2007 年に火山情報の発表はありませんでした。

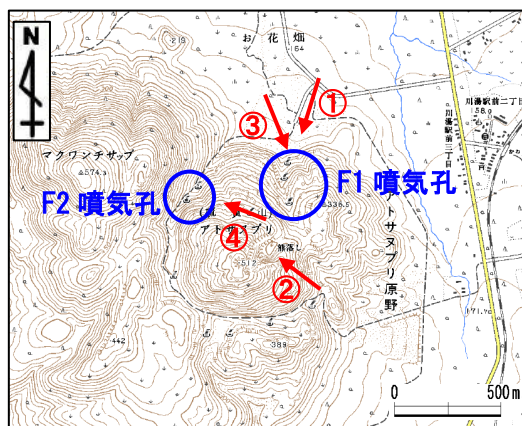


図 1 アトサヌプリ 周辺図

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、北海道大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

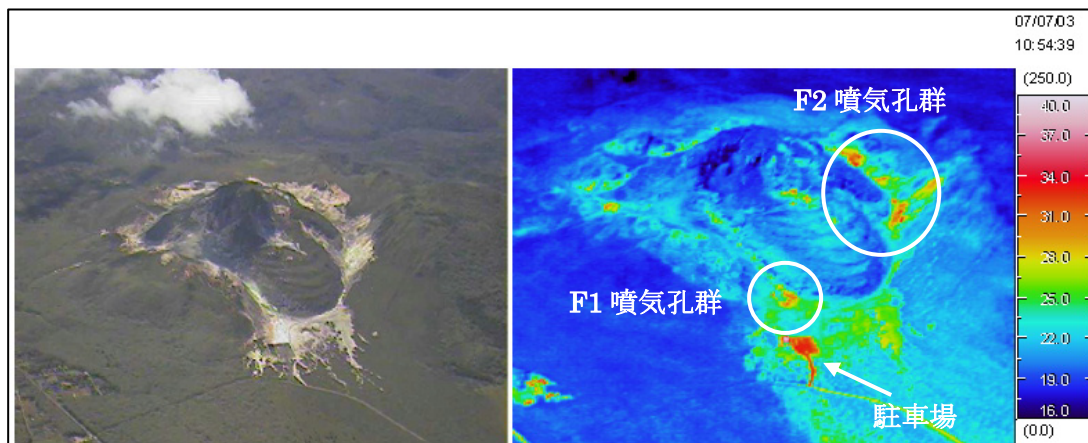


図 2 アトサヌプリ 赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による地表面温度分布  
(2007 年 7 月 3 日 図 1 ①方向から撮影)



図 3 アトサヌプリ 熊落とし火口の状況  
(2007 年 11 月 6 日 図 1 ②方向から撮影)



図 4 アトサヌプリ F1 噴気孔群の状況  
(2007 年 11 月 6 日 図 1 ③方向から撮影)

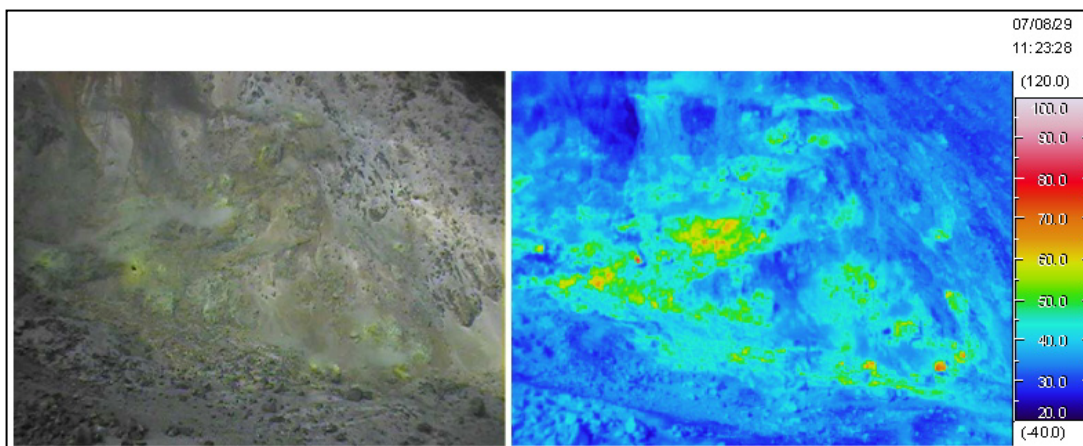


図 5 アトサヌプリ F2 噴気孔群の地表面温度分布  
(上段：2006 年 7 月 20 日 下段：2007 年 8 月 29 日 図 1 ④方向から撮影)

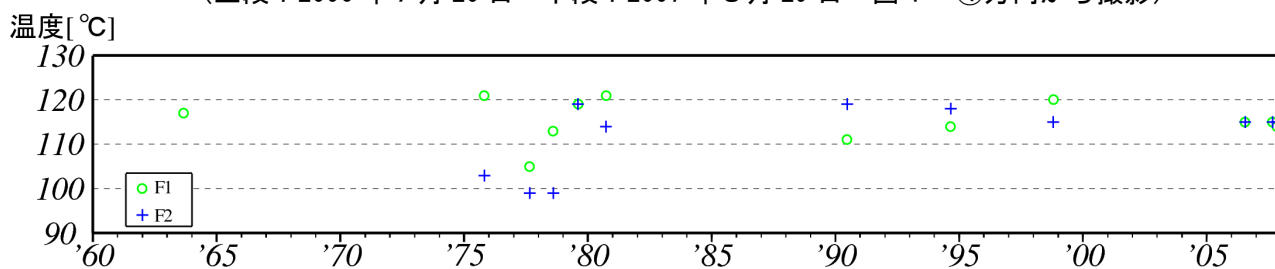


図 6 アトサヌプリ F1・F2 噴気孔群の温度変化 (1963 年～2007 年)

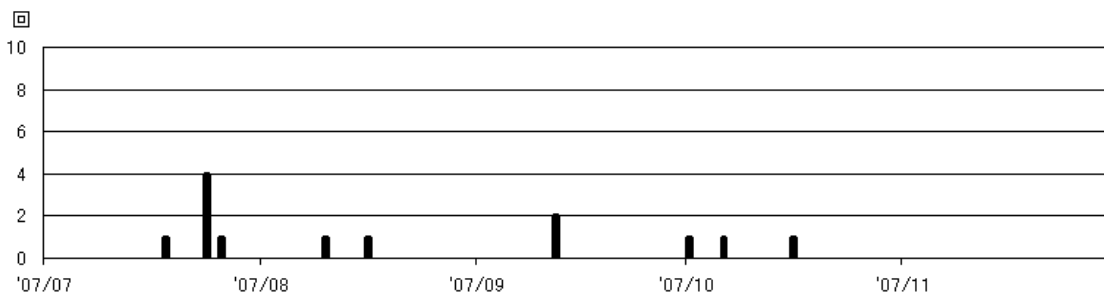


図7 アトサヌプリ アトサリシリ山南麓における日別地震回数 (2007年7月13日~11月7日)

<参考> アトサヌプリにおける地震活動

アトサヌプリ周辺では広域ネット地震観測網により、年に1回程度マグニチュード1前後の地震が捉えられていました。2007年の地震活動もこれまで同様低調に推移しました。

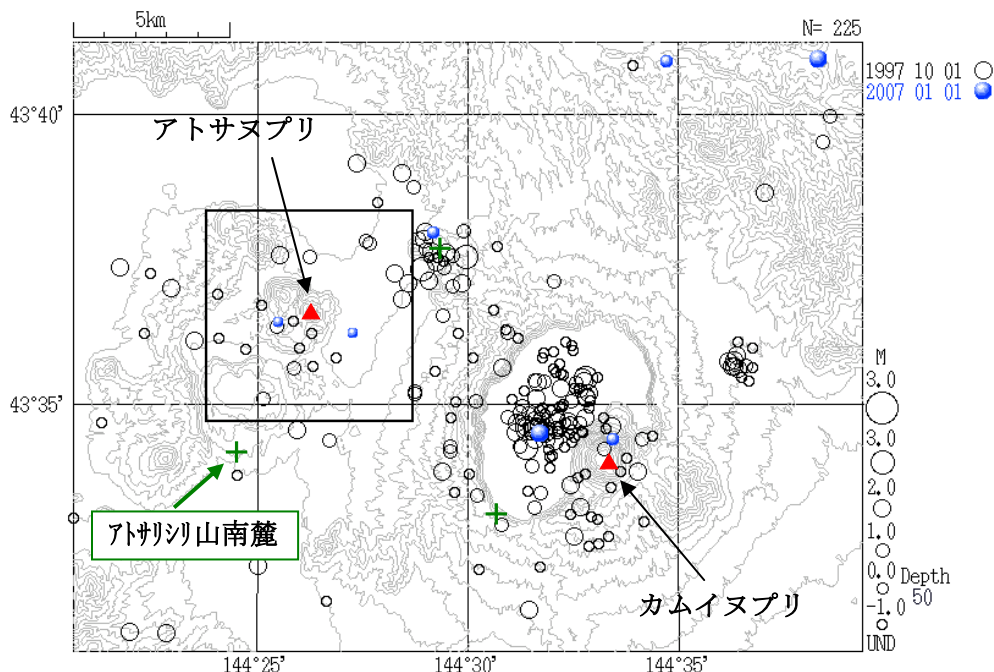


図8※ アトサヌプリ 広域ネットによるアトサヌプリ周辺の地震活動 (○ : 1997年~2006年の震央、○ : 2007年の震央)

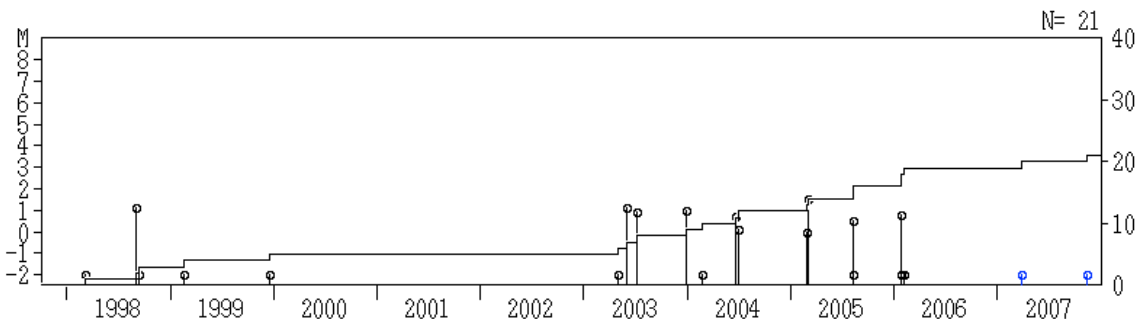


図9※ アトサヌプリ 広域ネットによる図7の□区域内の地震 地震活動経過図 (規模別) 及び回数積算 (1997年~2007年)